

## ハイキング、鳴き鳥、そしてアースウォッチ活動による環境保護への目覚め

「ワイオミングの大自然の中で鳥の声で目覚め、キャビンの外にはシカがいて、ハイキングをすればクマを見つけ、夜になれば頭上に天の川が広がる。毎日が感動と笑顔に満ち、自然の素晴らしさと多くの脅威を肌で感じて理解した 2 週間の体験が、当時 15 歳だった自分の学業、仕事、そして人生をも変えるきっかけになりました」

— ジュディス・サンタノ、2013 年のイグナイトフェロー、アースウォッチ教育者インターン —

私がはじめて地球に恋したのは、2 週間の鳴き鳥の調査にワイオミング州へ行った時でした。周りのもの全てに心を奪われて、その全てを吸収しようと必死だったことを今でも覚えています。世界がこんなに緑豊かで空気がこんなにきれいだということが信じられませんでした。空気があまりにもきれいなので、息をするのにさえとまどったほどでした。毎日、私は部屋の外から聞こえる数えきれないほどの鳥と鹿の鳴き声で目を覚ましました。家から遠く離れ、ハイキングに出かけては鹿を見つけ、鳥の鳴き声を学び、天の川を見上げるという調査の日々は、私にとって多くの“初めて”で一杯でした。毎日が、興奮、笑い、学び、知性と情緒両面の成長、正真正銘の純粋な幸せに満ちた、新たな冒険の一日でした。

今日まで、この 2 週間ほど私の人生を劇的に変えたものはありません。それまでの私は科学を愛するちょっとマニアっぽい子供でした。でも、この調査に参加したことで、いわば環境保護のスイッチが入ってしまったのです。ロスアンゼルス出身の私は、これほど自然にどっぷり浸かった経験がありませんでした。環境が破壊の危機にさらされていて、何を必要としているか、私はそれまで全く理解していなかったのです。調査期間の中ほどを過ぎたあたりで、私は環境への配慮がどれだけ重要で必要なかに気づかされました。この調査は私の目を全く新しい世界に向けて開かせ、ただ一途に科学を愛す他にも多くの道があることを見せてくれたのです。15 歳で全てを知ったわけではありませんが、アースウォッチがその後の私の学業、仕事そして人生の道筋に影響を与えたのです。

私が参加することのできた科学的調査は、期待していたものとは全く違っていました。毎日、川を渡り、目に見えるほどの花粉の雲の中で、普通ならほとんどの人が高く評価しないと思える鳴き鳥たちを見つけるためのハイキングをする。これが科学的調査の日課でした。私たちは鳴き鳥たちに足輪を付け、個体数変動をモニターするために巣を記録しました。収集していたデータが何十年にもわたって続いている国のデータベースに送られるということを研究者から聞かされた時、信じられない思いだったのを覚えています。自分たちのチームに留まらず、もっと大きな、とても重要なものの一部になるなんて、すごいと感じました。それまで気にも留めなかったこれらの美しい生き物たちを辛抱強く観察したことは、目からうろこが落ちるような体験でした。このことが、どんなに小さなものであろうと、身の回りのもの全ての大切さに目を向けることを私に教えてくれたのです。

私は今でも日々の生活の中で目にする鳥たちに魅了されています。いつもそうと鳥たちが飛ぶ様子を観察し、鳴き声のわずかな違いを見つけようとしています。

現在、私が調査に参加してから 4 年が過ぎましたが、いまだにワイオミングで地球をどのように好きになったかについて話しています。私はスタンフォード大学の 3 年生になろうとしています。地球システム科学

を専攻しています。人間が環境に与える影響を学べるだけでなく、環境教育の重要性と有能なサイエンスコミュニケーター(科学について一般の人々に判り易く伝える人)になる方法を学べるクラスを選びました。私が大好きなのは、科学、コミュニケーション、教育です。この三つを理解する上で、アースウォッチは常にお手本でした。過去4年間、私はアースウォッチで働くことを夢見てきました。私の人生にこれほど強い印象を残してくれたアースウォッチに恩返しをしたかったです。この夏、ついに私はボストンへ行き、アースウォッチのインターンとして働く機会を得ました。私の人生にこんなにも深いインパクトを与えてくれたプログラムに出逢い、そして人々の人生をも変えてしまう組織の一員となって、発端となったプログラムのインターンになれるなんて、自分がどれほど幸せか言い表せないくらいです。

どうして私が地球システム科学を専攻したかを尋ねられた時は、いつでも私はこう答えます。「だって私の心が地球を恋しがっているからよ」

全てがアースウォッチから始まりました。アースウォッチ活動が地球に恋をする機会を与えてくれたのです。私は、その思い出と自分よりもっと大きな何かのために働きたいという気持ちを、これからの人生でもずっと持ち続けていくでしょう。